

新年度の道路新技術導入計画案

国交省

新規に陥没軽減対策

国土交通省は12日、道路技術懇談会を開き、道路分野の新技術の社会実装に向けた取り組みを定める新技術導入促進計画について、2025年度の計画案を示した。埼玉県八潮市の道路陥没事故を受け、陥没被害を軽減する技術の新規テーマに位置付けた。陥没に強い道路構造や、従来

技術より深い位置の空洞を検知できる技術を検証していく。

25年度の計画案に盛り込んだ新規テーマは、▽道路陥没の被害を軽減する技術▽低炭素アスファルト技術の導入促進▽道路付属物の点検支援技術▽コンクリート構造物の3Dプリンティング技術▽橋梁

等全国道路施設点検データベース活用促進環境整備——の五つ。期間はいずれも27年度まで。

道路陥没の被害軽減技術のうち、陥没に強い道路構造については、路面下空洞が発生した場合の崩落を防ぐ技術や、陥没前に変状が確認できる技術を検証する。路面下の

空洞検知技術に関しては、通常の空洞探査車で把握できる2倍程度より深い位置の空洞を検知できる技術を対象とする。いずれも道路や既存の占

路巡視の効率化・高度化」
「路面太陽光発電技術」の既存3テーマについては、27年度まで取り組みを更新し、技術カタログの拡充などを目指す。

新規、更新の計8テーマごとに、国交省と連携して技術実証などに取り組む新技術導入促進機関を近く公募する。

用物件の維持管理に影響を与えない技術などを求める。検証を経て技術性能カタログをまとめる。

低炭素アスファルト技術に関しては、舗装分野のカーボニユートラルに向けて、素材と製造段階の低炭素材料の導入を検証する。要求事項には従来技術と比べてCO₂を削減することや耐久性を備えていることなどを設定する。

検証の成果として舗装の構造の技術基準をまとめていく。

また、「トンネル施工の自動化・遠隔化」「ICT・AI（人工知能）を活用した道

